

令和3年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)		技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをおとして、優れた知性や創造性を身に付けたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた、健全で個性豊かな人材の育成をめざす。		今年度の重点目標		1. 学力の向上 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路実現 4. 学校業務改善への取り組み		
評価項目		評価の具体項目		年 度 当 初		各分掌の具体的な取組（中間評価）		
1	学力の向上	①	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
			【授業改革】 ◇学力向上研修を予定どおり実施。研修を活かしている職員の割合は43%に上昇 ◇オンライン授業の導入に向けてICT活用研修を3回実施。講演会や式典等の学校行事を教室で観る技術が確立 ◇校内Web上にアクティブラーナーの情報を提供、オンライン研修に延べ7名参加 一人一授業公開はコロナ禍での展開が難しく、実施率は53%に下降（1月末） ◇対話的な学習活動に制限はあったが、ICTを活用した授業実践が徐々に浸透 評価アンケートによる生徒の授業満足度が76.8%に改善（昨年70.4%） ◇教員自主研修として「授業見学週間」を新設。また、鳥工版STEAM（教科横断型学習）の実施に向けて「単元・題材配列表」を作成 【学力の向上】 ◇基礎学力不足の生徒に対する指導を、1学期に各科が4回程度実施 ◇数学基礎演習を、工業各科・数学科が実施 ◇2年生で進学補習及び、成績不振者の「考査前自主学習会」を実施 【学習環境の整備】 ◇毎週初めを「5・S・あさひの日」とし、整備された室内環境を維持 ◇GIGAスクール構想に伴い、教室棟・共通実習棟のWi-Fi環境を増強 ◇プロジェクトの更新による視認性向上と、教材提示法の拡充【授業改革】	【授業改革】 ◇学力向上研修を生かしている教職員の割合が、昨年度よりも増加する（前年度43%、前前年度38%） ◇一人一授業公開の実施率が前年度を上回る（前年度53%） ◇生徒の授業満足度が前年度を上回る（前年度76.8%） ◇鳥工版STEAM教育を試行する ◇新学習指導要領に合わせて年間授業計画を見直す ◇アクティブラーナーの利用推進を図る 【学力の向上】 ◇入学時よりも生徒の数学力が向上している ◇特別講習を受けた生徒が、先端技術を習得することにより学力を向上させている ◇興味をもって授業に臨み、一人一人の知的総合力が高まっている 【学習環境の整備】 ◇生徒が自発的に「整理・整頓・清掃」を実践し、学習環境を整えている	【授業改革】 ◇教職員にとって有意義な学力向上研修会を企画する ◇教職員に一人一授業公開を促す ◇他の教職員の授業を見学できる期間を設定し、見学で発見したことを授業に取り入れるよう促す ◇教務掲示板とスケジュールで各種研修を案内する ◇他校のSTEAM教育実践事例を参考にして、鳥工版STEAM教育の実践方法をまとめる ◇スケジュールやメールでアクティブラーナーの利用を呼びかける 【学力の向上】 ◇数学基礎補習を各科で実施する ◇特別講習を各科に依頼する ◇知の世界の豊かさや深さ、面白さに触れる学習のあり方についての研究を継続的に行い、全体で共有する 【学習環境の整備】 ◇「5・S・あさひ」の励行により、教室整備と授業規律の確立を目指すとともに、3・Sに重点的に取り組む時間を年5回設定する			
2	豊かな人間性の育成	②	と主体的な学習態度	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間は昨年度に比べて減少 R2第2回80分/日（R1第2回93分/日） ◇予鈴を設定し授業開始までの準備・着席が良好 ◇授業ルールの明文化や実習前の活動内容確認で主体的な学習ができた	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習に意欲的に取り組む（目標とする学習時間：工業学科90分） ◇規律ある授業展開、場に応じた速やかな動作・集団行動ができる ◇基礎学力を身につけ、進路を意識し、主体的に学習に取り組むことができる ◇ICTを活用し実践力を身に付けている	【生徒の学習状況と学習意欲の喚起】 ◇自宅学習時間増加に向けた取り組みを各教科で検討し取り組む ◇授業規律を具体的に周知するとともに各行事や学年集会等で集団行動の動きを身につける ◇基礎力診断テストを通じて学力を把握しD3の生徒の補習を行うとともに、進路意識の高揚をはかる ◇ICTを活用した授業展開や課題を検討する		
			①	互いを尊重する態度と社会性の	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHRの事前事後研修を行い情報交換をおこなった ◇生徒情報の把握に努め、各学年、他分掌、スクールカウンセラー、家庭等との連携をはかった ◇性に関する指導講演会やLHRを通して、正しい異性観を持ち、性への自立共生がはかれた 【ハイパーQ.U.、いじめアンケート等の活用】 ◇hyper-Q.Uアンケートと職員研修会を実施した ◇いじめ等に関するアンケート（計3回）を実施し、問題の早期発見・対応に努めた 【指導力向上の職員研修】 ◇校外の人権教育関係の研修の中止・延期が相次ぎ、参加の呼びかけができなかった（一人一研修、3月末53%） ◇公開人権教育LHR後に研究協議を実施	【人権教育・性に関する指導】 ◇生徒の人権意識の高揚と、他者の人権や存在の尊重 ◇生徒の実態に合った支援方法により、特別支援を要する生徒の安心した学校生活の確立 【ハイパーQ.U.、いじめアンケート等の活用】 ◇自己理解と集団規律の順守 ◇いじめの無い学校生活 ◇学校が楽しいと思えるとともに、悩みが相談しやすい雰囲気の高揚 【指導力向上の職員研修】 ◇職員の自主的な研修として「一人一研修」の参加100% ◇研修成果を教科やLHR等に還元	【人権教育・性に関する指導】 ◇人権教育LHR・性に関する指導LHRの実施 ◇特別支援計画を早期策定し、その支援に特別支援教育支援員を活用する 【ハイパーQ.U.、いじめアンケート等の活用】 ◇1・2年生2回、3年1回のハイパーQUを実施し、その都度データの読み取りや活用についての職員研修を行う ◇いじめアンケート、生活振り返りアンケート（1年のみ）、生徒会伝言BOX、相談室等を通じて、生徒の抱える悩み等を把握する等関係分掌と情報を共有 ◇外部関係機関との連携 【指導力向上の職員研修】 ◇研修会や講演会の情報を発信し、オンラインも含めた研修会への参加を促進 ◇事前学習など人権教育LHRの指導案の協議	
3	キャリア教育の充実と進路実現	②	健全な心身と社会貢献精神の育成	【基本的生活習慣の確立】 ◇「5・S・あさひ」、あいさつ運動については、一定の効果をあげている ◇学年ノートの活用が曖昧になり、効果が半減した ◇臨時全校集会を2回開催するなど落ち着きのない状況であった 【ボランティア活動】 ◇多くのボランティアが中止となり参加人数が14名に減少した 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動では多くの大会が中止となり、中国大会や全国大会に出場者数が11名であった ◇各委員会の活動が定着した 【環境改善】 ◇廃棄物2018年度比2％減、電力は2018年度比1％減という目標をあげているが、3月で廃棄物12.6%減・電力6.5%減だった 【安全教育】 ◇対象生徒を縮小したり、リモートでの視聴にするなどして、各種安全教室を実施することができた ◇自転車事故4件	【基本的生活習慣の確立】 ◇規範意識や社会で通用する行動や考え方を身に付けた生徒の増加 ◇頭髮検査の不合格者の減少、正しい制服の着こなしの定着 ◇授業規律順守を徹底 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の参加者がR2年度比10%増加 【部活動、生徒会活動】 ◇各クラス役員の活動と生徒会活動の活発化 ◇部活動において、R3年度の中国大会出場者数の増加を目指す 【環境改善】 ◇環境LHR、環境講演会等による教職員、生徒への啓発 ◇2018年度比可燃ゴミ排出量2%減、電力は2018年度比1％減を引き続き目指す 【安全教育】 ◇交通ルールやマナー等社会生活に必要な正しい知識の習得	【基本的生活習慣の確立】 ◇日常的な頭髪・服装指導 ◇授業規律を明確化 ◇問題行動の早期発見・早期対応の取り組み実施 【ボランティア活動】 ◇ボランティア活動の場を広報し奨励 【部活動、生徒会活動】 ◇部活動における外部指導者の活用 【環境改善】 ◇毎月の達成状況を公開し、教職員、生徒への啓発を行う 【安全教育】 ◇全職員による朝の交通指導、教室棟巡回業務の継続 ◇各種安全教室の実施（携帯マナー講習、自転車安全、非行防止・薬物乱用防止教室等）		
			①	技術専門的習得知識・	【人材育成】 ◇新型コロナウイルスの影響によりいくつかの検定試験が中止となったが、受験した検定試験は合格率が上がりつつある ◇技術顕彰、ジュニアマイスター受賞者が前年度より増加した	【人材育成】 ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験にチャレンジ ◇年度末までに、一つ以上の資格・検定試験に合格	【人材育成】 ◇資格、検定が進学に大きなプラスになることを認識させるとともに、各種大会への参加の啓発指導の継続 ◇生徒の資格取得状況の把握及び事前指導 ◇資格取得実績が伴う効果的な学習計画の立案と指導・支援の実施 ◇進路意識の高揚を図るため、インターンシップ、企業見学会の実施	
4	業務改善の取組	②	労働指導の徹底・職業観の育成と進	【職業意識の育成】 ◇例年と異なり計画通り実施できなかった進路行事等に対して代替案を含め丁寧に対応した ◇応募前職場見学は就職希望者全員が参加 【進路指導の徹底】 ◇「進路の手引き」「キャリア・パスポート」を用いた進路LHRを展開 ◇進路面接資料（就職編、進学編）を作成し面接指導に活用 ◇昼休憩に「企業・学校説明会」を計20回実施（昨年30回） 参加延べ人数305人（昨年185人）と大幅増。その内26人が説明会参加企業・学校に進路決定 ◇基礎力診断テスト、各種外部模試の実施、各教科・担任へフィードバックし効果的な指導を実施 ◇1回目の就職試験合格率は目標値の90%を超え91%を達成 ◇工業学科のみとなり、進学状況が4大17名（国公立4名含）、短大1名、専門学校等28名だった	【職業意識の育成】 ◇各学年の進路行事などの取り組みをとおして、進路意識が向上し勤労観、職業観が育成されている 【進路指導の徹底】 ◇一回目の就職試験合格率90%以上となっている ◇適切な進路情報を提供し、全生徒の進路実現がなされている	【職業意識の育成】 ◇インターンシップ、各企業見学等の実施及び事前事後指導の徹底 ◇就職者希望者に対して、校内外の進路行事を通じて社会人基礎力を高める 【進路指導の徹底】 ◇とっとりふるさとキャリア教育の全体計画に基づき、「キャリア・パスポート」「進路の手引き」を活用し3年間を見通し、系統立てた進路指導、キャリア教育を実施 ◇校内の進路行事は、保護者にも案内し、生徒と共に進路の検討機会を提供 ◇基礎力診断テストを含め外部模試の結果を担任、教科へフィードバック、効果的な指導を実施		
			③	地域や産業界との連携強化	【人材育成】 ◇上半期の企業見学、インターンシップなど各事業は概ね中止、下半期は企業見学など概ね予定通り実施 【情報発信】 ◇行事は少なかったが、実施したものについては案内、HPを更新、また学年によっては学年通信など随時発行 ◇出前授業の反応は良好、進路選択への影響を期待、中学校体験入学は説明見学のみ実施 【地域との連携】 ◇清掃活動、津ノ井地域懇談会は中止、マナーアップさわやか運動は9月分のみ実施（令和2年度） ◇テクノボランティアは7月のみ実施、12月は中止（令和2年度） 【PTA活動の推進】 ◇各事業ごとにまちこみメールなどを通じて情報を発信、ただし、令和2年度は中止、延期の連絡増加 ◇コロナ禍でもできる行事を精選して実施し、実施したものについては前年より参加者増	【人材育成】 ◇企業、地域産業から求められる能力を取得 ◇生徒自身が個性を活かせる進路の決定 【情報発信】 ◇「ものづくり」の体験を含めた地域や小・中学校等との交流と積極的な情報発信 【地域との連携】 ◇地域行事、地域と連携した貢献活動等への参加 【PTA活動の推進】 ◇保護者、地域を中心とした本校の教育活動への理解の深化 ◇保護者、地域の方々の本校の生徒指導方針に則った生徒の見守り ◇保護者などが参加しやすい事業の計画	【人材育成】 ◇実施可能な行事では継続指導を行い、生徒への意識を徹底 【情報発信】 ◇実施可能な行事ごとに保護者への参加を促すHPやまちこみメールを継続活用 ◇出前授業、テクノボランティアなどの継続実施、タイムリーな記事をHP等で情報発信 【地域との連携】 ◇参加可能な行事には積極的に参加し、地域と密接に交流 ◇テクノボランティアなどの継続実施による地域貢献活動への参加 【PTA活動の推進】 ◇コロナ禍の中でも実施できる行事を精選し、できるだけ多くの保護者が関わることでできるように発信を密にしながら、PTA活動の内容を検討	
5	業務改善の取組	①	トースリーQの実践	◇定期的な執務室の清掃を実施 ◇共有フォルダを再構成し、業務の手順書の作成を依頼したが次年度用のフォルダの構成が未完成なこともあり、不十分な状況 ◇時間外勤務について、部顧問間で計画的に指導を分担したり、時間外業務時間の現状をフィードバックするなどにより、H29年度比51%の削減 ただし、時間外業務時間が年間360時間を超えた職員が2名、月45時間を超えた職員が延べ5名	◇5・Sの実践に伴って業務場所や共有フォルダを整理・整頓し、見通しを立てながら業務を遂行 ◇QCストーリーに則した計画の見直しによる、業務内容の理解と実施時間の削減 ◇時間外業務について、月45時間、年間360時間を超える教職員の解消	◇定期的な執務室清掃の実施及び共有フォルダの使用ルールを設定 ◇要項・手順書を担当ごとに作成、また、業務終了後には、より良く引き継げるよう改訂してネットワークフォルダで共有 ◇部活動における休養日、活動時間を設定したうえで、顧問間で計画的に指導を分担 ◇行事、会議の精選についての検討 ◇時間外業務時間を管理職が適宜職員にフィードバック		

注) 5・S：整理・整頓・清掃・清潔・狭 　あさひ：挨拶・作法・人の話を聴く　ハイパーQ.Uアンケート：よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート　デュアルシステム：学校の授業と並行して企業で学習するシステム　テクノボランティア：学んだ専門技術を生かした地域へのボランティア活動　AL：アクティブ・ラーニング　QC（品質管理）ストーリー：問題解決の手順　STEAM教育：科学(S)技術(T)工学(E)芸術・文学・歴史・経済など(A)数学(M)を融合させた